

## 第7章 低炭素社会の将来都市像と地球温暖化に対する取組

### 7.1 低炭素社会の将来都市像

#### (1) 低炭素社会とは

二酸化炭素の排出が少ない社会のことで、地球温暖化の緩和を目的として、その原因である温室効果ガスのうち、大きな割合を占める二酸化炭素の排出を抑制する社会です。

#### (2) 市の上位関連計画に見る低炭素社会のキーワード

低炭素社会の将来都市像を検討するにあたって、宜野湾市の上位関連計画にみられるキーワードの整理を行いました。

##### ①第四次宜野湾市総合計画基本構想・後期基本計画（令和3年4月）

キーワード1：循環型社会の構築

キーワード2：自然環境や地球温暖化に配慮した持続発展可能な都市

##### ②都市計画マスタープラン（令和3年12月改定）

キーワード1：都市環境と自然環境が調和

キーワード2：省エネルギー・資源循環型のまちづくり

キーワード3：大量生産・大量消費から省資源・省エネルギー・リサイクルへ

→循環型社会の構築

キーワード4：自然と共生する持続可能なまちづくり

キーワード5：自然災害に強いまちづくり

#### (3) 将来都市像

本計画で定める都市像とは、総合計画や都市マスタープランなどで示す総合的な都市像ではなく、地球温暖化対策として「あるべき都市の姿」をイメージするものです。

また、本市の温室効果ガス削減に効果的な対象は、市民や事業所へのアプローチが重要になり、これら主体を想定した都市像が求められます。

低炭素社会は、炭素の発生源を抑制し吸収源（緑）を増やす都市形成を目指すものです。これを踏まえ、第四次総合計画や都市マスタープランに示されているキーワードから、地球温暖化を防止する都市像を次のように設定します。

### —都市と自然が調和した、省エネルギー・循環型環境都市—

また、地球温暖化対策を実施するには、それぞれの主体的な取組が求められることから、サブタイトルを次のように設定します。

### —市民・事業所・行政みんなで取り組む二酸化炭素排出の少ないまち—

## 7.2 地球温暖化に対する取組

低炭素社会の実現に向けては、二酸化炭素の主な発生源である民生家庭、民生業務、運輸部門の取組が重要となります。また、地球温暖化対策は、それぞれの主体的な取組が不可欠であることから、各主体別の取組を整理します。

### (1) 環境にやさしいライフスタイル〔市民〕

本市は、市民（民生家庭等）による二酸化炭素排出量が多く、市民のライフスタイルの変革が目標達成のカギとなります。

このため、家庭における節電や省エネ家電への買い替え、自動車使用の抑制やエコドライブの実施及びエコカーへの買い替え、ごみの減量化、太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入等の取組を推進します。

### (2) 環境にやさしいビジネススタイル〔事業所〕

最も二酸化炭素排出量が多い民生業務部門に該当する事業所には、ビジネススタイルの変革が求められます。なお、本市の事業所は規模が小さいことから、取組内容としては市民の取組と類似しています。

一方で、一定規模以上の事業所も存在することから、民生家庭分野と同様の取り組みに加え、それぞれの事業所規模に応じた、効果的な取り組みを推進します。

### (3) 低炭素社会のまちづくり〔行政〕

行政は、自らが率先して地球温暖化対策のモデルとなる取組を実施するとともに、市民や事業所に対し地球温暖化対策に関する普及・啓発を行います。また、再生可能エネルギーの導入等市民や事業所の温暖化対策を支援するとともに、公共交通の充実など交通体系を見直し、車依存社会の改善を図ります。更に、既存緑地の保全や市街地内の公園等の緑地創出により二酸化炭素の吸収源を確保し、自然豊かな環境都市の実現を目指します。

地球温暖化の問題は、一人一人の意識の改革が不可欠であることから、これらの情報発信を行うとともに、地球温暖化を含めた環境教育の充実に取り組みます。